

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の「社会と調和し自立して生きる力」を育み、地域から信頼される学校

布施北高校は生徒に以下の力をつけるために、多様な学びを実践し、地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育を行うことで、総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現します。

- (1) 自己を高める力・・・確かな学力(読み・書き・計算・表現力)を育み、ねばり強さと未来に希望を持つ志を養います。
- (2) 人とつながる力・・・人とつながる喜びを知り、周囲と協力し合う力を養います。
- (3) 社会に貢献する力・・・地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力を養います。

2 中期的目標

1 学習活動の充実

- (1) 普通科・デュアル総合学科・エンパワメントスクールそれぞれの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。
- (2) 3学科の教科学習活動の充実、及びデュアル総合学科・エンパワメントスクールにおける実習や教科設定科目の学習内容それぞれの充実を図る。
*学校教育自己診断における生徒の授業満足度(平成28年度48.5%)を平成31年度55%以上にする。

2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり

- (1) 生徒一人ひとりを大切に生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学及び原級留置を防止する。
*中途退学率(平成28年度10.0%)を平成31年度8%以下にする。
- (2) 保護者との連携・協力体制を強め、担任・学年団と生徒指導部が連帯して、計画的・組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。
- (3) 各中学校との連携を密にし、個々の生徒指導に活かす。
- (4) スクールカウンセラー(SC)との連携を強め、教育相談体制を充実させるとともに、支援が必要な生徒の状況を共有し、各分掌・学年と連携してケース会議を開くなど、積極的に生徒支援を行う。
- (5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- (6) 全教職員が同和教育をはじめとした人権教育の理念を学び、尊重して共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努めることにより人権教育を推進する。
- (7) 多数の中国等帰国生徒や外国人生徒が在籍する学校として、学習の保障と進路保障に向けての支援を行うとともに、多文化共生教育を推進し、「ともに学ぶ」学校づくりを進める。

3 キャリア教育・進路指導の充実

- (1) 三年間を見通したキャリア教育(勤労観・職業観を養い、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけ)を積極的に進める。
- (2) 学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さを理解し、自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、発達段階に応じた系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を実践する。
- (3) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながりあい、学び合い、助け合いながら組織としての成長を図る。
*進路決定率(平成28年度81.6%)を平成31年度に全国平均(平成24年度94.4%)以上にする。

4 エンパワメントスクールへの改編期の3学科の教育活動の充実と完成期へ向けての積極的な情報発信

- (1) エンパワメントスクールへの改編期における3学科の教育活動を等しく充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。
*学校教育自己診断の生徒学校生活満足度(平成28年度58.2%)を平成31年度に90%以上にする。
- (2) デュアル総合学科のデュアル実習を充実させ、さらにエンパワメントスクールのインターンシップやデュアル実習においても生徒の増加に対応して実習先を開拓し地域との連携を深め、実習を通して社会で活躍する意欲や態度を育成する。
*デュアル実習の満足度(平成28年度63.8%)を平成31年度70%以上にする。
*学校教育自己診断の生徒の将来の進路関係の項目肯定的評価(平成28年度63.8%)を平成31年度70%以上にする。
- (3) デュアルシステムをはじめとした学校のさまざまな取り組みや情報を保護者、中学校、地域、府民に向けて発信し、学校イメージの向上を図るとともに、改編後の学校の教育内容や学校の魅力等について積極的に情報発信する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>【生徒】・回答数は減少した(522→487名)。 ・4点満点に換算したポイント(P)の数値18設問(24問中)でポイントが上昇し、総平均も上昇した。(2.68P←2.57P) ・評価の高い設問は「22 この学校にはデュアルシステムをはじめ、他の学校にない特色がある」(3.17P)「渡日生(外国語を母語とする生徒)との交流や多文化理解の機会が多い」(2.97P)で、低い設問は「17 人権について学ぶ機会がある」(2.35P)「16 学校はクラブ活動の活性化のために熱心に取り組んでいる」(2.42P)であった。 ・減少が大きい設問は「16 学校はクラブ活動の活性化のために熱心に取り組んでいる」(-0.31)「20 教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている」(-0.21)であった。「16」ではクラブ加入者数は増加しているので生徒への発信に工夫が必要と考えられる。また「20」では、プロジェクターや視聴覚室、実習室の整備が進んでいるのでさらに情報の分析が必要である。</p> <p>【保護者】・回答数はやや減少した(140←167名)。しかし、3年生については50%近い保護者からの提出があった。 ・4点満点換算ポイント(P)の数値で1設問を除く18設問でポイントが上昇し、総平均も上昇した。(3.02←2.85P) ・評価の高い設問は「4 文化祭・体育祭・宿泊行事(修学旅行)などの学校行事に、子どもは積極的に参加している」(3.43P)「14 学校は、自分の生き方を考え豊かな心を持った子どもを育てようとしている」(3.43P)で、低い設問は「11 布施北高校のホームページを見ることがある。」(2.44P)「3 子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」(2.58P)であった。 ・評価上昇の大きい設問は「14 学校は、自分の生き方を考え豊かな心を持った子どもを育てようとしている」(+0.64P)、「11 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」(+0.48P)であった。 ・減少は1設問で「17 学校は、デュアルシステムを含め、学校の特色や教育情報提供の努力をしている」(-0.01)であった。「17」についてはポイントは高いのでさらに情報提供に工夫がいる。</p> <p>【教職員】・回答数はほぼ変化ない(69←67名)。4点満点換算P総平均はやや上昇した。(2.81←2.76P) ・デュアルシステム、地域連携「いじめ対応」「キャリア教育」の設問の評価が高く、「校内人事、分掌分担」「学校運営への意見反映」の設問の評価が低い。 ・改編期であり通常の業務に加えて改編業務が加わっているため過負荷になっている。完成期に向けて業務分担や意見交換を進め意欲を高める工夫が必要である。</p>	<p>第1回(6/17) <学校経営計画の説明、現状報告> ・外国人生徒の習慣や理解について、異文化理解を扱わないのはもったいない。 ・子どもが教科の勉強をしたとき、先生を捕まえて。過去問の質問などは、個別で聞きたいときの対応をしてもらいたい。 ・一つひとつの事象に喜びながら、感動しながら、子どもを信頼してやってもらえたら生徒にも伝わるから、関係を築ける学校になってほしい。 ・成功例を自分で発表する、新聞など取り上げられると励みになる。J-COMなど東大阪がやっている番組を活用してほしい。</p> <p>第2回(11/18) <デュアル発表会について、進捗状況> ・今までの中で一番完璧に近い。ただ、1年生・2年生の発表をもう少し長くしてほしい。 ・染髪、派手な化粧の生徒がおらず、生徒指導の面での学校のバックアップの強さを感じる。担任の欠席・遅刻生徒への対応の厚さ、バックアップの強さもある。 ・地域とのつながりが強い。地域行事への参加のよさ。クラブ活動の活性化が学校評価にかかわってくる。</p> <p>第3回(2/10) ・教員の社会経験、社会の変化についていくための経験の不足が感じられる。今後の社会の変化や職のあり方の変化など、見通しを持って子どもたちに伝えてほしい。 ・生徒のなかでICTの印象が薄いというのはよい傾向ではないか。教員が当たり前のように、ICTを使うようになると、生徒にとっても当たり前になったという証拠であるという考え方がある。それがICTの項目のポイント減少に繋がったと考えられる。今後、ポイントを伸ばすには、ICTの活用方法を変化させていく必要がある。事前にパワーポイントで授業の流れを全て作りこんだ授業は、流れるように面白くないというのが私の考えである。もっと子どもたちの意見で変化してゆくような生きた授業を試みてほしい。 ・デュアル実習先の開拓が110社増となり、よかった。20年続けることができたのは、地域に支持され、受け入れられた結果だと思う。これは宝物であり、新しい教員にもつないで行ってほしい。他校、他府県の見学も広く受け入れ、全国の教育を良くしてほしい。 ・認知度を高めることが大切である。地域に実態を伝え、支援を求めよう。布施北高校を自慢できるように頑張ってほしい。学校が中心となって次の世代をつくってほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 学習活動の充実</p>	<p>(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備</p> <p>(2) 生徒が「わかった」「楽しい」と思う主体的な学びを成立させる教職員の授業力の向上</p> <p>(3) デュアル総合学科における授業内容の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業中の「五大規律」を一致して指導し、「授業こそが生徒指導の場面」として落ち着いた授業環境を作る。</p> <p>イ 1年生の国数英モジュール授業の習熟度別授業を通して分かる楽しさを体験させ、基礎基本の学力を身につけさせる。</p> <p>ウ ユニバーサルデザインの視点から生徒が集中し落ち着いて取り組める学習の取組みを進める。</p> <p>エ ICT教育内容をさらに充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア エンパワメントタイムをはじめとした参加体験型授業を増やす。</p> <p>イ 授業公開週間を設定し、授業の工夫を教職員が互いに学び合い授業研究できる機会を持つ。</p> <p>(3)</p> <p>ア 2・3年生のスムーズな実習の遂行</p> <p>イ 外部講師によるデュアル関連科目の教育内容の充実</p>	<p>(1)(2) 昨年度比較</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒学校教育自己診断における授業満足度肯定的評価 50%以上 (H28年度 48.5%) 長期欠席者数をH28より減少 (H28年度 126名) 中途退学者率 10%以下継続 (H28年度 10.0%) 生徒学校教育自己診断「ICT活用している」肯定的評価 80%以上 (H28年度 75.3%) <p>・教職員学校教育自己診断「指導方法の工夫改善」「授業方法について検討する機会」4点中のポイントをアップ (H28年度 70.8%)</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習出席率 90%以上継続 (H28年度 90%超) 	<p>(1) ア 概ね一致した指導ができています。</p> <p>イ・ウ・エ 1年は習熟度別少人数での授業を実施し、基礎基本の徹底、ICTの活用によるより分かりやすい授業を実践できた。昨年度に比べても、生徒が積極的に参加している様子が伺えた。2・3年生についてもICTの活用による視覚的な提示を行う授業の実践ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒学校教育自己診断における授業満足度肯定的評価 49.5% (H28年度 48.5%) (△) 長期欠席者数は大きく減少 112←126名 (○) 中途退学者は減少させることができた。 8.8% (○) (H28年度 10.0%) <p>・生徒学校教育自己診断「ICT活用している」肯定的評価 62.9% (△) (H28年度 75.3%)</p> <p>(2) ア エンパワメントタイムでは計画通り参加体験型授業を実施できた(生徒自己診断1年肯定的評価 78.7%)。他の授業でも生徒との対話型の授業を多く実施できている。</p> <p>イ 通常の公開授業週間に加え、全教員で1年生の授業を特別に研究する機会を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員学校教育自己診断「指導方法の工夫改善」「授業方法について検討する機会」4点中のポイントをアップ 2.78←2.65P (○) <p>(3) ア 実習については事業所の協力も得て大きなトラブルなく欠点者を出さずに終えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習出席率 93.5% (H28年度 90%超) (○) <p>イ 関連科目を充実させるため、外部講師として</p> <ul style="list-style-type: none"> 2,3年デュアル関連科目(教務G) 132hを活用した。
<p>2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 一人ひとりの生徒をしっかり把握し高校生活に定着させるための生徒指導の充実</p> <p>(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実</p> <p>(3) 生徒の居場所となる魅力ある学校づくり</p> <p>(4) 人権教育の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 頭髪指導や服装指導、遅刻指導による規範意識の醸成</p> <p>イ 1年生を複数担任制にすることで、きめ細かな生徒把握・生徒対応を行う。</p> <p>ウ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携を図り、学校行事への参加やPTA活動への参加を呼び掛ける。</p> <p>エ 随時迅速な中高連携と中高連絡会の開催や全教員による中学校訪問を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒の状況把握に努めるとともに、組織を改編して教育相談や生徒支援体制を充実させるとともに、スクールカウンセラー(SC)及びスクールソーシャルワーカー(SSW)との連携を強化し、要配慮生徒のケース会議を開くなど、生徒支援を充実させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア 部活動や生徒会活動を活発にし、活動状況を校外外に発信する。</p> <p>(4)</p> <p>ア 生徒対象の人権学習を発達段階に応じ系統的・計画的に実施する。</p> <p>イ 人権教育やカウンセリングマインド生徒指導、障がい理解等をテーマとした教職員研修を実施する。</p> <p>ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切にしつつ、ともに学ぶ教育を推進する。</p>	<p>(1)(2)(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期欠席者数をH28より減少 中途退学者率 10%以下継続 欠席延人数をH28年度より減少させる (H28年度延 13,845人) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」評価を昨年度(52%)よりアップ 支援体制の整備 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動・部活動の活性化と発信 部活動加入率をH28年度(29%)よりアップ <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員研修の充実 (年間4回以上) 	<p>(1) ア・イ・ウ 規範意識や生活習慣に対して継続的で粘り強い指導と、きめ細かな対応(複数担任含む)が実施できた。</p> <p>エ 迅速な中高連携はさらに進める必要があるが、中学校訪問を中心とした中高連携は年間を通して実施できた。(中学校訪問延べ378校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期欠席者数は減少した。112←126名 (○) 中途退学者率は減少させることができた。 8.8%←10% (○) 欠席延人数は1年生を中心に大きく減少した。 11,273←13,845人 (○) <p>(2) SCの増時間、SSWの配置に伴い相談案件が増加している。特にSSWに関しては生徒の実態に対応するためマネジメント経費で増時間を確保した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」評価 58.2←52.6% (○) <p>(3) 生徒会活動(体育祭や北辰祭他)をはじめとした生徒の活動の様子を、今年度設置した2か所のモニターに年間を通じて常時画像を配信している。5月段階での部活動加入率が34%であり、1年生を中心に大幅に増えた。(◎)</p> <p>(4) ア 人権学習は計画通りに進めた。また、緊急に対応が必要な場面も丁寧かつ迅速に対応できた。</p> <p>イ 職員研修は、障がい者理解、SCによる教育相談関係、指導教諭による生徒理解と授業、の3回をすでに実施した。3月に4回目を実施予定。(○)</p> <p>ウ 外国ルーツ生徒については、昨年度の対応に加え、今年度着任のネイティブ教員を加えての対応ができた。</p>
<p>3 キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) 三年間を見通した体系的なキャリア教育の取組み</p> <p>(2) 進路指導の取組み</p> <p>(3) 地域等との連携強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1年時よりキャリア教育の充実のために職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人の進路設計への意識を高める。</p> <p>(2)(3)</p> <p>ア 進路決定及び定着のための取組み継続</p> <p>イ デュアル実習連携企業・施設の拡大</p> <p>ウ 中小企業家同友会との連携</p> <p>エ デュアルシステムでの連携企業・施設等の地域交流を促進する。</p> <p>オ キャリア教育コーディネータを活用した取組み継続</p>	<p>(1)(2)(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路未定率 20%以下継続 (H28年度 18.4%) 就職内定率 90%以上継続 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規連携協力事業所 30か所以上の確保 (H28年度 42か所) 	<p>(1) ア エンパワメントスクールとしての1年次からのキャリア教育はエンパワメントタイムを中心に計画的に進めている。2・3年生については、普段からの指導に加え、外部の機関への見学や、外部講師を招いて直接話を聞く機会などを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、進路未決定率は13.3% (H28 18.4%) 就職斡旋内定率は98.5%、(○) <p>(2)(3) ア 3年生進路決定のための取組みは計画通りに実施できた。</p> <p>イ 連携事業所は、多くの教員が開拓にまわり新たに約110事業所(インターンシップ 87社、デュアル実習 31社、重複有)が開拓できた(◎)。</p> <p>(H28年度 42か所)</p> <p>ウ 今年度は中小企業家同友会の取組みに加えて、商工労働部とも連携をした中小企業向けセミナーでも本校の取組みを発信できた。(○)</p> <p>エオ 地域交流・CCの活用は昨年通り計画的に取り組みを進めた。(○)</p>

府立布施北高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 改編期の教育活動の充実と情報発信 完成期へ向けての積極的な</p>	<p>(1) 改編期における3学科の教育活動を等しく充実させる</p> <p>(2) 積極的な情報発信</p>	<p>(1) ア 1年生のエンパワメントタイムのスムーズな運営 イ 2・3年生の普通科及びデュアル総合学科の教育活動の質を落とすことなく充実させる。</p> <p>(2) ア 中学校及び中学生、保護者向けにエンパワメントスクールの教育内容と魅力について発信する。 イ ホームページの内容充実 ウ PTA・同窓会の通信の充実</p>	<p>(1) アイ 生徒学校教育自己診断における授業満足度及びデュアル実習満足度の向上 H28年度 * 授業満足度 48.5% * デュアル実習満足度 63.8%</p> <p>(2) ・通学想定区域(旧5学区中北部周辺、大東市、平野区北部等)中学校全校訪問継続 ・HPにおける情報発信の工夫</p>	<p>(1)ア エンパワメントタイムは多大な労力をかけて運営ができた。見学に来られた方からも高評価を得ている。 ・1年エンパワメントタイム特別非常勤講師15名55hを活用 イ 2・3年生の教育活動も普段からの授業はもちろんだが、特に行事を中心に生徒が大きな力を発揮できる充実した取組みとなっている。 * 授業満足度 49.5←48.5% (○) * デュアル実習満足度 83.3←63.8% (○)</p> <p>(2)さらに学校の様子を知ってもらうため校内モニターの活用、説明会、中学校訪問、HPの改編等で積極的に情報発信ができた。 ・学校説明会へのHPからの申し込み実施 学校説明会等参加者 452←390名 ・中学校訪問延べ 374校(3月・9月・管理職)(○) ・HP全面改編、エンパワメント取組み紹介やデュアルブログ新設、発信回数増加(○)</p>
--	---	---	--	---